

令和3年度第1回久留米広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会全体会 議事録

(1) 日 時：令和3年11月12日（金）10:00～11:30

(2) 会 場：久留米シティプラザ中会議室

(3) 出席者：

<委員>

世利洋介委員（座長）、原文雄委員、黒沼清寿委員、穴見英三委員、實藤俊彦委員、古賀友理子委員、赤尾哲之委員、森山有希子委員、小田好一委員、有田究氏（山崎享一委員代理）、野口厚委員、高橋英二委員、大川内洋介氏（吉田憲和委員代理）、樋口好則委員、吉岡マサヨ委員、眞子佳子委員、岡本卓也委員、高松恭子委員、川原久明委員、有馬彰博委員、梶原明子委員

<事務局>

久留米市総合政策部 黒岩部長、今田広域行政担当参与、総合政策課 中村主幹、樋口主査、権藤主事

<構成市町>

大川市、うきは市、大刀洗町

(4) 次第及び議事：

1. 開会	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 委員の半数以上の出席があるため、久留米広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会設置要綱第6条第2項に基づき、会議成立の報告。 発言者名を除き、議事録を久留米市ホームページに掲載することの説明 開会にあたり挨拶
座長	<ul style="list-style-type: none"> 設置要綱第6条第1項の規定に基づき、座長に議長をお願いする。 新任委員(8名)の紹介、代理出席者の報告
2. 第2期久留米広域連携中枢都市圏ビジョン(素案)について	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 説明
座長	<p>分野ごとに、委員の皆様の意見・質問をいただきたい。</p> <p>まず、「圏域全体の経済成長のけん引」分野についてはどうか。</p> <p>(意見・質疑無し)</p> <p>次に、「高次の都市機能の集積・強化」分野についてはどうか。前回の全体会では、久留米シティプラザの活用についてご意見をいただいていたが。</p>
委員	<p>圏域全体の中での、久留米シティプラザの位置付けを明確にし、圏域の特色をプラザの運営にどう活かすかの視点が必要と考える。高等教育機関を中心にMICEでの活用を積極的に行っているが、高等教育機関に限らず、各分野横断的に取り組んでいく必要がある。</p>

座長	「生活関連機能サービスの向上」分野についてはどうか。
委員	「ジェンダー平等」のSDGs目標がどの施策方向性にも関連付いていない。特に、子育て支援には欠かせない視点であり、ぜひ入れていただきたい。
座長	ご意見については、対応を事務局にて整理し、後日報告されたい。 分野問わず、他に何かあるか。
委員	ふるさと納税の共通返礼品について、どのような品を考えているか。また、筑後田園都市推進評議会や筑後地区観光協議会など、様々な枠組みで広域観光が進められているが、この圏域での取組みはどのような位置付けか。
事務局	ふるさと納税については、具体的な検討はこれから。各市町の特産品を組み合わせたものを想定している。広域観光については、事業案として挙げているうち、特に「魅力ある観光商品づくり事業」においては、各市町の資源を活かしたプログラムを織り込むなど、圏域の魅力に特化した内容としている。
委員	先ほどもあったが、ジェンダー平等の視点が必要。また、災害対応は喫緊の課題である。巨瀬川上流部の森林が崩れれば、久留米市にも大きな被害が出る。しかしながら、地元の対応だけでは限界があるが、どう考えているか。
事務局	国や県、流域自治体の連携により流域治水の取組みが進められる中、圏域の4市2町においては、避難所運営や住民への避難情報伝達等のノウハウを共有し、災害に強い圏域づくりにつなげていく事業を設定している。
座長	地域公共交通については、何かあるか。
委員	バス利用者は新型コロナウイルス感染症前の7~8割に落ち込んでおり、KPIに示される現状維持は困難と考える。
事務局	新型コロナウイルス感染症の今後の見通しが想定しにくい中、令和7年度にはその影響が収束しているという仮定のもとでKPIを設定している。一方、この仮定から状況が大きく変わったときには、ビジョン懇談会にも諮りながら、例外的にKPIを見直すことも考えたい。ご指摘のバス利用者については、この仮定のもと、人口減少で地元利用者が減少する一方で新たな人流を生み出し、減少分をカバーする考え方で、現状維持を目標としている。
委員	KPIには、第1期ビジョンで設定されていた創業相談件数や、創業者数も設定してほしい。また、分野横断的に取り組むべき課題に対しても、セクションごとの動きになっているように感じる。プラットフォームを作り、リーディング事業を設定するなど、分野にこだわらない進め方ができないか。

事務局	現ビジョンでは、ご指摘の相談件数など、アウトプットのKPIも設定していた。第2期ビジョンでは、分野ごとの出口を意識し、アウトカムに寄せた12項目を設定したいと考えている。また、現在、ワーキンググループごとに様々な連携事業を展開しているが、分野を限らない課題については、事務局とワーキンググループの間で意見交換を行いながら事業を推進している。特に第2期ビジョンの素案を作成するにあたっては、新型コロナウイルス感染症をふまえた事業の展開等について協議をしながら進めてきたところである。今後もしっかりと各ワーキンググループと連携して進めていきたい。
座長	各事業とも、これまでは横の連携が弱い印象があったが、リーディング事業の展開については、資料中、「圏域が一体となった情報発信に向けた事業群」がこれに位置付けられるとも考えられる。
委員	観光入込客数が、「生活関連機能サービスの向上分野」のKPIに位置付けられている理由と、「圏域全体の経済成長のけん引分野」のKPIから外れている理由は。
事務局	「生活関連機能サービスの向上分野」のうち、地域振興促進事業など、圏域内の交流を促進する取組みの成果として、観光入込客数をKPIに設定している。一方、これまで、観光客を呼び込みお金を落としてもらうという視点から、観光入込客数と観光消費額を「圏域全体の経済成長のけん引分野」のKPIとしていたが、観光誘客も圏域内の様々な生産活動のひとつとして、新たに設定した「圏域内総生産額」に包含させている。
3. その他	
座長	その他、事務局からあるか。
事務局	今後、構成市町の首長で構成する推進協議会の承認を経て、ビジョンの策定が完了する。策定完了後は、委員の皆様には郵送で報告したい。 また、ビジョン懇談会設置要綱の規定により、委員の任期はビジョンの計画期間までとなっているため、今任期中は今回が最後の開催になる。新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度からは集まっていただく機会が持ちにくかったが、委員の皆様におかれては、今回の議題の次期ビジョンの策定を含め、これまでビジョンの推進にご協力いただき感謝する。
座長	質問等はあるか。 (質疑無し) 事務局からも説明があったとおり、今任期中は今回が最後の会議となる。これまでの活発な意見交換に感謝する。
4. 閉会	